



進路指導室でああなたの未来探検 ～あなたの勇気ある一步を！～



1, 2年生の皆さんは、進路指導室に入ったことがありますか？ 2階自販機の前にあるので場所を知らない人はいないはずですが。まずドアを開けると、進路主任で進学担当のN先生と、就職担当のK先生がにっこり笑いながら迎えてくれました。ドアの左は進学情報の宝庫。様々な大学や専門学校の資料と受験情報誌がぎっしりと並んでいます。また、廊下の棚にはオープンキャンパスや学校説明会のチラシやポスターがあります。そしてキャビネットには就職情報と企業のパンフレットが。

1, 2年生の皆さんは、将来自分の職業はどのようなものに就きたいのか、明確でなくても変わってもよいので、その方向を決めていくことです。進路が決められないのだったら、なぜ決められないか意識してください。そうしたら次のステップは進路指導室のドアをノックして、進路系の先生に相談してみましょう（もちろん担任の先生でもOKです）。そしてぜひそのことを、おうちの人と共有してほしいのです。あなたの勇気ある第一歩で、新しい未来への展望が開けます。さあ、一步前進！



「蓼科学」今年度最終回 ～次年度に向け授業記録を編纂～



2月22日(火)は、地域連携授業「蓼科学」の最終日でした。私が会場の音楽教室を覗いてみると、みんな何やらぐるぐると回っています。それもそのはず、1年間の授業記録をまとめた記録集をつくってしまいました。私も、この冊子の序文を執筆しました(裏面参照)。自分なりに「蓼科学」に傾けた3年間の想いと、今後の学校と地域の望ましい発展について私見を述べさせていただきました。この1年間、ご協力をいただきました全ての皆さまに感謝申し上げます。

困ったお話(その60) (恐怖のザザ虫ご飯<後編>) お願い：食事中は決して読まないでください。

前回のあらすじ 大学生時代、下宿に招いた友人たちに、ありもしない「ザザ虫ご飯」をつくって食べさせた私。さて、究極のゲテモノメニューに対し友人たちの反応はいかに？

「ザザ虫ご飯」を前にみんな一瞬ドン引くのがわかったが、弱気を見せまいと思ったのだろう。『みやざわあ～、お前こんなものを食っていたのかあ？』と言いながらみんなモリモリと食べていた。『うんそうだよ！』と言いながら、私は自分でつくったくせに何とか食べないでやり過ごす方法を考えていた。

するとある友達が押し殺した声で、『おいみやざわ、これどうしても食べられない。』と言った。彼の箸を見ると、ザザ虫ではないものがはさまれていた。

「ヤバい、困った。マゴタロウだ。なんでこんな虫がまぎれてるんだ？」マゴタロウとはヘビトンボの幼虫で食用(薬用)だが、太いし大きくてザザ虫がキュートに見えるほどだ。ムカデによく似ていて、胴体には毛まで生えている醜悪ぶり。それが水を吸い原寸大の迫力で私の目の前に立ちはだかっていた。私は笑って言った。

「こんなの食べられるさあ。」

友人の手前、私は平静を装い口に入れた。しかし弾力性を回復したマゴタロウは、「にちゃあ～」としてかみ切れぬ(この体験もトラウマになっている)。

『う、うん。これはちょっとやめたほうがいいかな？』

笑う私の眼には涙が浮かんでいたが、みんなは気づかずそのまま盛り上がり、知らぬが仏の宴会は終了した。私一人がむくいを受けた。



さあ、召し上がれ！

「蓼科学」授業記録 序文より

はじめに

このたび、地域連携授業の「蓼科学」の授業記録が、皆様のお手元にお届けできるはこびになりました。

昨年度より続いています新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度も臨時休業や短縮授業、日程や日課変更などの諸対応により、大きく授業が制約を受けました。また、残念ながら今年度も地域開放講座は見送りとなりました。授業を通してご指導いただきました先生方には、日程変更などのご無理を承知していただき、それぞれのご専門の講義や取り組み発表をしていただきました。講師の先生方の熱意もあり、生徒諸君もこの制約下だからこそ、例年以上に熱心に授業に参加し、「よく見、よく聞き、よく考え、よく発表」ができたと思います。ご指導いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

一昨年前にこの場でお話ししましたが、地域を愛する方々の温かい手によるこの学習は、生徒に「愛郷心」と「自己有用感」いう情操的にかげがえのないものを涵養し、生徒が将来地域で愛され頼りにされる社会人として、この地に生きる糧になると思っています。

さて、明日の地域社会を担う人材育成を使命としている本校の責務として、大切なのはここからだと思っております。第2のステップは、得た知識だけではなく、自ら調べ創造していく能動性を養うことと、体験し五感で感じることです。今年度は、長野大学教授前川道博先生のアクティブラーニングの手法を取り入れたご指導によって、地域の特徴的なスポットを自ら調べ、クイズ形式で小学生へ高校生が発表する取り組みを行うことができました。また「地域Ⅰ」の授業では、女神湖カヌー体験など、観光地の特色を理解しながら自然に親しむ体験を行うこともできました。

そして第3のステップは、地域のもつ現実の課題に対峙し、自分で解決法を考え、よりよい地域社会の創造に資することです。3年次の「地域Ⅱ」では、立科町役場の企画課のご指導のもと、今年度より人口減対策に参画し、自らのアイデアを考え発表する取り組みを始めております。また、同時進行として力を入れてきたのが進路指導です。立科町商工会様のご協力により、昨年より地元企業の進路説明会を実現することができました。『夢講座』と題するこの取り組みは、単なる会社説明だけでなく地域の大人が仕事を通して「夢」を語る機会を必ず入れてもらうようお願いしています。長らく学校現場で進路指導の仕事をしてきた経験上、生徒が地元就職を決める一番大切な動機は、「大人の熱い心意気」だと思うからです。

「蓼科学」で始まる一連の取り組みの結果、本校生の地元企業への就職者が2年前は1人であったのが、今年度は5人になりました。もしも将来、彼らが立科町で家庭を持ち、子どもをもうけたら？ また、これが20年続いたらどうなるのでしょうか？ 更に進学者の地元企業への就職率が継続的に向上したら？ きっと明るい未来が見えてくるのではないのでしょうか。

最後になりますが、一昨年度以来、本校は微力ながら希望の種を播いてきました。実を結ぶには、多くの方々のご協力と長い時間が必要です。今後ともよろしくご指導をお願い申し上げます。



令和4年(2022年)3月
蓼科高等学校長 宮澤 和人